

議会運営委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査として、上富良野町議会会議規則第 75 条の規定により閉会中の継続調査として申し出をした次の事件について、調査を終えたので同規則第 77 条の規定により報告する。

令和 5 年 12 月 6 日

上富良野町議会議長 中 澤 良 隆 様

議会運営委員会

委員長 米 澤 義 英

記

調査事件名 議員定数の削減について

1 調査の経過

本委員会は、令和 5(2023)年第 3 回定例会において、閉会中の継続調査として申し出をした先進市町村行政調査の調査事件名を「議員定数の削減について」に決定し、令和 5(2023)年 9 月から 2 回の委員会を開催して調査を行い、10 月 30 日釧路管内白糠町議会で、11 月 1 日釧路管内標茶町議会で「議員定数の削減について」先進事例の調査を行った。

2 調査のテーマについて

本町は、平成 15(2003)年 8 月執行の上富良野町議会議員選挙において議員定数を 20 人から 18 人に 2 人削減し、平成 19(2007)年 8 月執行の上富良野町議会議員選挙においては議員定数を 18 人から 14 人に 4 人削減した経緯があるが、その後議員定数については、平成 23(2011)年、平成 27(2015)年、令和 4(2022)年にそれぞれ議員間で議論を行った結果、現状の 14 人とすることに決定をしていた。近年、本町においても人口減少が進み人口が 1 万人を切るような状況になって来たことに加え、近隣の市町村においてもこの間、議員定数の削減が行われてきた状況にあるため、改めて本町の議員定数について見直し等が必要なことから調査テーマを「議員定数の削減について」とした。

3 調査の概要

令和 5(2023)年 4 月 23 日執行の統一地方選挙において道内 126 市町村で、73 市町村が議会議員の選挙が行われ、53 市町村が無投票となった。このうち、釧路管内の白糠町及び標茶町が議員定数を削減しても選挙が行われた町であることから先進市町村と決定をした。

(1) 白糠町の概要

令和5(2023)年9月末現在の総人口7,179人(男3,355人、女3,824人)、総世帯数3,993世帯となっている。白糠町は、北海道の東部に位置し、総面積は773.13km²の町である。農業や林業、漁業、工業が盛んであり、農業では、鍛高地区でシソの生産が行われており、シソ焼酎「鍛高譚^{たんたかたん}」の名に採られている。特徴としては、太平洋沖の暖流と寒流が交わる絶好の漁場であり、年間を通じて様々な海産物が獲れ、特にししゃも、毛がに、柳だこ、鮭、つぶ貝は全国へ出荷されている。町の一番の魅力でもある、食と食材をきっかけに全国の方に白糠町を知っていただき、足を運んでいただくため、ふるさと納税の取り組みに力をいれている。

令和4年(2022)年度のふるさと納税への寄付額が148億3,300万円で、全国ランキング4位となっている。

白糠町議会は、議員定数12人。総務文教常任委員会5人、産業厚生常任委員会6人、議会運営委員会6人の構成となっていた。

【調査内容】

① 定数削減した理由（町民か議員のどちらからか）

白糠町議会では、議員定数を平成17(2005)年に18人から5人削減し、13人となり、その後、平成27(2015)年及び平成31(2019)年の2期続けて選挙で無投票となったことにより、議員から定数削減の声が出て、その後1人減とし12人となった。

② 定数削減にあたり特別委員会など設置したのか。また、町民や外部組織からの意見を求めたのか

白糠町議会では、平成29(2017)年12月13日に議員定数等調査特別委員会を設置、平成31(2019)年4月30日までの任期中11回の会議を開催し定数は現状維持(13人)とした。

令和元(2019)年6月11日に議会改革・活性化特別委員会を設置し、令和5(2023)年4月30日までの任期中全体会議、小委員会、分科会で23回の会議を開催し、議論を行ったが、意見が集約できないので再度全体で意見を出し合った結果、3人減、2人減、1人減、現状維持などの意見が出た。

令和2年に全体で決める前に議員個々の考えを議会だよりに掲載をして中間報告を行った。令和3(2021)年に町民アンケートを行い町民の意見を全体でまとめて報告する予定であったが議会で問題が生じたために報告は行わず小委員会でまとめた。

令和4年に、全体で議論をしても意見が集約されないために最終的に多数決で決めることとした。

③ 定数削減後の委員会の状況について

白糠町議会では、12人の議員で総務文教常任委員会・産業厚生常任委員会・議会運営委員会の3委員会においてそれぞれ6人で構成されているが、総務文教常任委員会のみ議長が辞任し5人となっている。議長は、常任委員会に所属しないこととしている。

④ 定数削減による投票率について

令和5年4月23日の選挙においては、投票率68.56%となっており、前回・前々回の2回は無投票、その前の平成23年の75.66%に対して投票率は下がっている。白糠町議会では、定数削減による投票率について関連は分からないとしており、近年の選挙に対しての関心の低さから全国的に投票率は下がっていることなどの影響ではないかと分析している。昨今の若者の政治離れや高齢化を勘案すると高い水準にあると推測された。

⑤ 報酬増の影響について

白糠町議会では、令和5年2月に議員報酬の増額を決定し、現行から10%増額している。このベースとなる基準はあくまでも議員186,000円の10%とし、議長、副議長、委員長それぞれも、各18,600円の増額としている。

その後開催された議会懇談会においても報酬増額に対する町民からの意見はなく、定数を13人から12人に1人減したことによる町民の受け止めなのではとのことである。このことが選挙につながった要因の一つと考えられる。

⑥ 議員の年代の状況について

白糠町議会の令和5年4月23日の選挙により当選された議員の年代別議員数は、40代0人、50代2人、60代5人、70代4人、80代1人となっており、年齢は51歳から80歳で、平均年齢は66.3歳である。

⑦ なり手を増やす取り組みをしているのか(なり手不足の解消策)

特になしとのこと。しかしながら、今回の報酬増の背景は、若い方に選挙に出てほしいとの考えで、報酬増はなり手不足の対策であったとしている。

今後においては、議員だけの専業で生活ができるような報酬額が必要であり、過去にあった議員年金の復活や、厚生年金・社会保険などが必要であるとのことである。

(2) 標茶町の概要

令和5(2023)年9月末現在の総人口7,042人(男3,439人、女3,603人)、総世帯数3,636世帯となっている。標茶町は、北海道の東部に位置し、総面積は1,099.41km²の広大な町である。広大な土地を活かした農業が基幹産業となっており、乳牛約4万頭が飼育されている。総面積の半分以上は、山林や湿原などの大自然であり、特徴としては、南側には釧路湿原国立公園、北側には阿寒国立公園があるなど、この豊かな自然を保全するため、植樹や清掃活動を行い、環境と産業が調和するまちづくりを進められている。

標茶町議会は、議員定数12人。総務経済常任委員会6人、厚生文教常任委員会6人、議会運営委員会7人の構成となっていた。

【調査内容】

① 定数削減した理由（町民か議員のどちらからか）

標茶町議会では、能率的で効率的な議会機能の維持、町民の付託に応える体制の在り方など議員の責務を執行するにあたり適正な定数について議論を重ね意見集約にも努めたが、人口減少が続くなか、定数減を望む町民の声は多く、そのことは民意であると受け止めるべきとの意見が大勢を占め、結果1人減の定数12人との結論に至った。

② 定数削減にあたり特別委員会など設置したのか。また、町民や外部組織からの意見を求めたのか。

標茶町議会では、令和4(2022)年3月28日に議長より議員定数等について諮問があった。令和4(2022)年7月22日全員協議会において情報共有のため勉強会開催。

令和4(2022)年第3回定例会に「標茶町議員定数等調査特別委員会の設置について」を議員提案し全会一致で可決した。2回の勉強会と3回の特別委員会開催の結果、令和4(2022)年11月28日に定数1人減に賛成多数で決定した。

③ 定数削減後の委員会の状況について

標茶町議会では、これまで特別委員会だった広報特別委員会を常任委員会とし、総務経済常任委員会、厚生文教常任委員会、広報常任委員会の3常任委員会と議会運営委員会があり、常任委員会は各6人ずつ、議会運営委員会は7人のため、常任委員会と議運など2つを兼務している。

④ 定数削減による投票率について

令和5(2023)年4月23日の町議会議員選挙では、投票率は70.43%となっており、前回の平成31(2019)年4月21日の選挙での投票率は77.17%だったので、投票率は減少傾向にある。昨今の若者の政治離れや高齢化を勘案すると高い水準にあると推測された。

⑤ 報酬増の影響について

標茶町議会議員定数等調査特別委員会において、報酬については、報酬増額や現状維持、或いは社会保障制度の充実、又は兼業禁止などの規制緩和も検討が必要との意見が出され、協議の結果更なる精査の要ありと認められ結論を出すに至っていない。報酬増なし。

⑥ 議員の年代の状況について

標茶町議会の令和5(2023)年5月9日現在の議員の年代別議員数は、40代1人、50代1人、60代4人、70代5人、80代1人となっており、年齢は49歳から81歳で、平均年齢は69.1歳である。

⑦ なり手を増やす取り組みをしているのか(なり手不足の解消策)

現在は何もしていないが、若い議員のなり手が少ないとの問題点を捉えており、今後3年間で若い方々が選挙に参加できる方策を考えていくとのこと。報酬については、社会保障制度が求められており、国に対して制度実現の働きかけが必要であるとのこと。限界集落に近い郡部からはなり手が居ない状況、兼業禁止規則の見直しなどを行うことが必要となっている。

4 まとめ

今回訪れた白糠町では、2期連続で選挙が行われなかったことで議員の中から定数見直しの意見が出ていた。初めの無投票選挙の時は特別委員会を設置したが、定数と報酬は現状維持との結論になった。2回目の無投票選挙の時は、選挙2か月後に特別委員会を設置して議論を深めた結果、定数減と考える議員と現状維持と考える議員の意見が2つに分かれ双方とも一歩も引かない状況の中、町民アンケートの実施などを経て全体で合意形成する予定であったが結果として、多数決での議決となった。結果は、削減5人、現状維持5人であり最終的に委員長が削減に賛成し6対5で定数1人の削減となった。

また、この削減の背景には偶然2期連続で途中1人の議員がお亡くなりになり定数1人減で議会運営されてきたがこのことも町民感情にあったことに重なっていた。

標茶町では、無投票の選挙は今まで一度も行われていないが、人口減少に伴い平成10年の20人から現在の12人の定数へと常に議員定数の見直しを図っている。政争の町として常に議会内で対立があったことから議長より諮問を受けて、議会運営委員会で話し合う場所をつくり情報を全議員で共有する機会を増やしてきた。

どちらの町も、議会内では定数に対して「減らさない方が良い」と考えている方が多く、町民は「減らした方が良い」と考える方が多いという傾向が見て取れた。

本町においても、この間、町議会議員選挙の立候補者は常に定数を超え選挙となっている現状にはあるが、近年の人口減少に加えて、過去に1~2人減で議会が運営されている状況も鑑みながらの議論が望まれ、住民からの意見も今後の議員定数においては十分に考慮する必要がある。

また、今回視察した町においては、白糠町は報酬を議員の10%相当分を議長以下全ての議員に上乘せすることとして、標茶町では報酬は現状維持だが平成31(2019)年度支給期末手当を100分の450と改定がなされていた。報酬と定数は同時に考えるべきものではないが議員のなり手不足解消に向けた身分保障や社会保障制度導入なども今後の課題である。

どちらの議会においても定数に関しては議論が紛糾し、答えを出すまでに大変な苦労があったことが伺えた。一方報酬については現状(当時)が多いと感じている議員はほとんどおらず、基本的には少ないと感じているといった点で一定の合意形成に辿り着くのは難しくなさそうであった。

今回の調査を通じ、議員がなぜ基本的に議員が多い方が議会にとっては良いと考えているのか、また町民が議員を減らした方が良いと考えている本質的な問題点はどこなのか、どうすればこの点の考えの不一致を解消できるのかを考えるに至った。議会と町民が丁寧にコミュニケーションをとりながら話し合いを進めていくべきではないかと思う。でなければ定数においても報酬においても、何のためにそうするのかという目的が定まらず、またその手法も導き出せないのではないか。そしていざ変更を断行した暁には、そのことによってどのような効果が得られたかはしっかりと検証していく必要があると考える。